

平成 28 年度
東京大学大学院情報学環
教育部シラバス

情報産業論講義VI（人生に役立つプランニング技術）

佐藤 尚之 講師
(株式会社ツナグ)

S1S2ターム 火曜日 4時限 (2単位)

講義概要

コミュニケーション・プランニングの基礎を系統立ってしっかり学ぶことを通して、広告宣伝プランニングのみならず、「人生全般に役に立つプランニング技術」の基礎を身につけてもらおうと思います。

どうやって伝えたい相手に伝えたいことを伝えるか。

これは、メディアや企業の仕事面だけでなく、様々なプレゼンや面接、ひいては恋愛にも使えるたいへん重要な技術です。ただし情報環境は過酷を極め、伝えたいことをもっている人には相当シビアな時代になりました。そういう時代への対処法も含め、基礎から実践まで、課題演習などもしていただきながら、進めていきます。

参考文献

- ・ 「明日の広告」 佐藤尚之 (アスキー新書)
- ・ 「明日のコミュニケーション」 佐藤尚之 (アスキー新書)
- ・ 「明日のプランニング」 佐藤尚之 (講談社現代新書)

講義の構成とスケジュール

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 広告概観/情報環境の把握
- 第3週 トップダウン～ボトムアップ
- 第4週 アイデアの作り方1
- 第5週 グループワーク
- 第6週 グループワーク
- 第7週 マスベースとファンベース
- 第8週 グループワーク
- 第9週 中間とりまとめ
- 第10週 アイデアの作り方2
- 第11週 グループワーク
- 第12週 社会に関与するということ
- 第13週 まとめ

メディア・ジャーナリズム論講義Ⅹ (新時代のメディア、新時代のジャーナリズム)

佐々木 紀彦 講師
(株式会社ニュースピックス)

S1S2ターム 火曜日 6時限 (2単位)

講義概要

今、メディアの世界では「100年に一度」と言ってもいい、大変化が起きている。デジタル、ソーシャル、モバイルの3つのテクノロジーの波により、ジャーナリズム、広告、コンテンツの流通、メディアビジネスなどの領域で、構造的な変革が置きつつある。

今後到来する「メディア新世紀」において、メディアとジャーナリズムはどこが変わるのか、変わらないのか。メディアの歴史と今を紐解きながら、新時代のメディア、ジャーナリズムのあり方を探るとともに、第一人者をゲストに招きながら、実際に記事執筆を行う。

参考文献

アメリカジャーナリズム報告 (立花隆)
メディアの権力 (デイヴィッド・ハルバースタム)
湛山読本 (船橋洋一)

講義の構成とスケジュール

- 第1週 俯瞰：メディアの構造変化
- 第2週 メディアの歴史 (1)
- 第3週 メディアの歴史 (2)
- 第4週 ジャーナリズムの名作を読む
- 第5週 実践 (1) (執筆テーマの決定)
- 第6週 ジャーナリズムの現場 (経済・ビジネス)
- 第7週 ジャーナリズムの現場 (スポーツ)
- 第8週 ジャーナリズムの現場 (国際政治)
- 第9週 ジャーナリズムの現場 (データジャーナリズム)
- 第10週 デザインとメディア
- 第11週 実践 (2) (輪読による批評)
- 第12週 実践 (3) (輪読による批評)
- 第13週 総評：メディアで働くということ

特別演習Ⅳ（教育部概論）

園田茂人教授、中尾彰宏教授、田中秀幸教授
真鍋祐子教授、中野公彦准教授、上條俊介准教授

S1S2ターム 水曜日 4時限（2単位）

講義概要

まず、ユニークな特性を持つ教育部というプログラムの歴史を跡づけ、そこで研究生になるということの意義を確認する。

そのうえで、情報学環を構成する多様な研究者が、おおむね2回ずつそれぞれの専門領域について概説する。なお、下記には学際情報学府における各研究者の所属コースが記されているが、講義のなかでコース全体の概説するわけではなく、あくまで各自の専門領域についての講義となる。

情報学環、および教育部の全体像を理解してもらうために2013年度にはじめて開講された授業。1年生はなるべく履修してほしい。

講師毎にA4用紙1枚のコメント・レポートを提出（合計6回）。出席とそれらの内容を総合的に勘案して成績評価する。

参考文献

- ・各講師が適宜、紹介、説明する。

講義の構成とスケジュール

第1週	4/6	上條 俊介	（オリエンテーション）
第2週	4/13	園田 茂人	（アジア情報社会コース）
第3週	4/20	園田 茂人	（アジア情報社会コース）
第4週	4/27	田中 秀幸	（社会情報学コース）
第5週	5/11	田中 秀幸	（社会情報学コース）
第6週	5/18	真鍋 祐子	（文化・人間情報学コース）
第7週	5/25	真鍋 祐子	（文化・人間情報学コース）
第8週	6/1	中野 公彦	（先端表現情報学コース）
第9週	6/8	中野 公彦	（先端表現情報学コース）
第10週	6/15	中尾 彰宏	（総合分析情報コース）
第11週	6/22	中尾 彰宏	（総合分析情報コース）
第12週	6/29	上條 俊介	（まとめ）
第13週	7/6	予備日	

メディア・ジャーナリズム論実験実習Ⅳ (社会をみつめるドキュメンタリーを制作する)

水島 宏明 講師
(上智大学)

S1S2ターム 水曜日 6時限 (4単位)

講義概要

さまざまな人たちの「日常」や「活動」の断面を映像で切り取って、社会にある<問題>や<変化>、人間の生き方などの“普遍的なテーマ”に通じるドキュメンタリー(映像作品)をつくる。主にテレビの報道記者やディレクターたちが行っている映像作品づくりを実践し、「映像」を考えながら、自分たちで取材を実践し、取材力、表現力、さらに映像ジャーナリズムのリテラシーを高めることを目的にする。

テーマの設定、背景の調査、取材対象の人物や現場の発掘、交渉、撮影、編集、ナレーション原稿の作成などの作品制作の作業を通じ、最終的にグループごとに15分程度の作品を制作。「地方の時代映像祭」などに出品する。

撮影、編集などの「実際の作業」は基本的に「授業外」で行う者とし、授業は主に各グループの進行状況や映像のチェック、学生同士の啓発のための助言を行う場とする。

ビデオカメラを使った現場での撮影、パソコンを使った映像編集が連日必要になるため、授業以外に時間を割くことができない受講生は受講しないでください。

参考文献

「社会の今を見つめて TV ドキュメンタリーをつくる」(大脇三千代・岩波ジュニア新書)
「ビデオカメラで行こう」(白石草・七つ森書店)

講義の構成とスケジュール

- 第1週 インTRODクシヨN「ドキュメンタリーの見方」
- 第2週 ビゼオカメラと編集用パソコンの使い方の講習
- 第3週 企画ニュースの構造と企画書、構成表を書く
- 第4週 企画ニュースをつくる(1)現場を取材する
- 第5週 企画ニュースをつくる(2)編集して作品に仕上げる
- 第6週 ドキュメンタリーを企画する(1)俯瞰と接近の視点1
- 第7週 ドキュメンタリーを企画する(2)俯瞰と接近の視点2
- 第8週 ドキュメンタリーを撮影する(1)
- 第9週 ドキュメンタリーを撮影する(2)
- 第10週 ドキュメンタリーを編集する(1)
- 第11週 ドキュメンタリーを編集する(2)
- 第12週 ナレーション原稿を確定する
- 第13週 作品仕上げの確認とコンクールへの出品

メディア・ジャーナリズム論講義区（テレビ・ジャーナリズム）

松原 耕二 講 師
(株式会社TBSテレビ)

S1S2ターム 木曜日 4・5時限（隔週）（2単位）

講義概要

テレビの報道番組の現場で、いま何が起きているのか。

報道番組と一口でいっても、そこには多様な要素が含まれる。ニュース、ドキュメンタリーといった番組、レポートや映像インタビューというテレビ記者ならではの仕事、またキャスターという存在。

この講義では、こうしたテレビの現場を俯瞰するとともに、最前線で働く人間が向き合っている課題を考える。毎回、具体的な映像を使って、テレビ・ジャーナリズムの抱える問題と今後の有りようを皆で議論していきたい。

参考文献

- 「職業としてのジャーナリスト」 筑紫哲也 責任編集、岩波書店（2005）
- 「聞く力、話す力～インタビュー術入門」 松原耕二著、河出書房新社（2015）
- 「記者の報い」 松原耕二著、文芸春秋（2016）

講義の構成とスケジュール

第1週（1コマ）	「イントロダクション」
第2週（2コマ）	「テレビキャスターの役割とは何か」
第3週（2コマ）	「報道に公正・中立は必要か」
第4週（2コマ）	「3・11でメディアは本当のことを伝えたか」
第5週（2コマ）	「テレビドキュメンタリーは生き残れるか」
第6週（2コマ）	「人に話を訊くには～インタビュー術入門」
第7週（2コマ）	「国際ニュースをどう伝えるか & 総括」

情報技術論講義Ⅲ（ICT サービスデザイン論）

新井田 統 講師

(株式会社KDDI 研究所)

村松 茂樹 講師

(株式会社KDDI 研究所)

S1S2ターム 木曜日 6時限 (2単位)

講義概要

高度情報化社会の発達により、ICT サービスの利用者は極めて多様な行動を取るようになった。そのような中では、新規技術の導入による機能の追加よりも、体験価値を向上させることが求められる。しかし、提供者と利用者はそれぞれ異なる文化をもつコミュニティに所属しており、両者の間の溝が、利用行動の多様化に伴いサービス開発の課題として顕在化してきている。このため、提供者・利用者の双方の立場に立って考えられる方法論を身につけることが望まれている。

本講義では、通信事業を例に上記の課題の解消に向けて行われている活動について解説するとともに、サービス設計の方法論について学ぶ。更に、フィールドワークや企業研究者へのインタビューを行い、提供者と利用者の中に生まれた溝について議論する。

参考文献

『誰のためのデザイン？－認知科学者のデザイン原論』, D. A. ノーマン, 新曜社

『「行動観察」の基本』, 松波晴人, ダイヤモンド社

『インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン』, ジュリア・カセム他, 学芸出版社

講義の構成とスケジュール

第1週 オープニング, ICT サービスデザインの課題, グループ分け (座学, 新井田)

第2週 HCD, 参加型デザイン, 顧客理解の必要性, 基本 (座学, 新井田)

第3週 調査設計, インタビュー設計 (座学, 久保隅, 新井田)

第4週 結果分析, ペルソナ作成 (グループワーク, 久保隅, 新井田)

第5週 ビッグデータ (座学)

第6週 セキュリティ (座学)

第7週 ウェアラブルコンピューティング, AR (座学)

第8週 宣伝 (座学)

第9週 タッチポイントデザインのアイデア出し (グループワーク)

第10週 KDDI への提案, 開発者FB (グループワーク)

第11週 課題抽出 (グループワーク)

第12週 アイデアのブラッシュアップ (グループワーク)

第13週 最終発表会

情報社会論実験実習Ⅲ（文京メディア・ビオトープ）

水越 伸 教授

A1A2ターム 月曜日 4限（4単位）

講義概要

水越伸が2016年度に文京区などで進める予定の市民のメディア表現、地域アーカイブなどに関する実践プロジェクトに参画するとともに、メディア論に関する古典的な文献を読むことを通じて、メディアとコミュニケーションに関する基本的な思想を体得する。

ビオトープとは生物が棲息できる小さな生態系のことをいう。水越は、人々が小さなメディアの生態系を育み、それによってメディア・リテラシーを身につけるとともに、アイデンティティを培いコミュニティを発展させていくような営みをメディア・ビオトープと呼んでいる。この授業はそれを文京区でやってみようというもの。

グループワークが中心となるので原則、すべての授業に出席することが必要である。また、地域のケーブルテレビや図書館などとの連携活動があるため、授業時間以外での活動が想定される。それらが可能な人に履修してほしい。

成績評価は出席(30%)、グループワークのパフォーマンス(30%)、成果物の評価(20%)、そして期末レポート(20%)を総合的に勘案しておこなう。

参考文献

- ・水越伸『改訂版 21世紀メディア論』放送大学教育振興会、2014

講義の構成とスケジュール

第1週 オリエンテーション

第2週 小さなメディアをデザインする（講義）

第3週 実践プロジェクトのあり方

第4週～第10週 グループワークと文献講読

第11週 まとめ

第12週～第13週 予備日（授業日以外の活動があり得るため）

情報産業論文献講読Ⅲ（情報社会と法）

酒井 麻千子 助 教

A1A2ターム 火曜日 4時限（2単位）

講義概要

米国情報法、特にプライバシー法学研究の権威である Daniel J. Solove の *Nothing to Hide: The False Tradeoff between Privacy and Security*, Yale Univ. Press, 2011.

（近日翻訳書出版予定）を輪読する。本書は年々注目が高まるプライバシーに関する議論について、特に安全保障との関係から検討を行うものである。授業の前半でプライバシーの法的保護に関する議論を講義した上で、授業の後半では受講者間で輪読箇所を分担し、担当者はできるだけ原著を参照しつつレジュメを作成して報告を行うこととする。

参考文献

Daniel J. Solove, *Nothing to Hide: The False Tradeoff between Privacy and Security*, Yale Univ. Press, 2011.

講義の構成とスケジュール

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 古典的理論／情報通信技術の発達とプライバシーの問題
- 第3週 プライバシーの法的保護に関する日本の議論
- 第4週 プライバシーの法的保護に関する欧米の議論
- 第5週 *Nothing to Hide*, Preface & Introduction (+Solove のプライバシー理論)
- 第6週 *Nothing to Hide*, Part I (1/2)
- 第7週 *Nothing to Hide*, Part I (2/2)
- 第8週 *Nothing to Hide*, Part II (1/2)
- 第9週 *Nothing to Hide*, Part II (2/2)
- 第10週 *Nothing to Hide*, Part III (1/2)
- 第11週 *Nothing to Hide*, Part III (2/2)
- 第12週 *Nothing to Hide*, Part IV (1/2)
- 第13週 *Nothing to Hide*, Part IV(2/2)

情報社会論研究指導Ⅳ（総理大臣とコミュニケーション）

前田 幸男 准教授

A1A2ターム 火曜日 5時限（4単位）

講義概要

総理大臣に関して近年出版された一般書籍・論文を輪読します。総理大臣が施政方針演説、国会審議、記者会見、書籍等を通じて、どのようなメッセージを国民に送り、有権者が抱く首相イメージを形成したのかを検討すると同時に、総理と国民とのコミュニケーション媒体としてマスメディアが果たす役割に着目する予定です。

事前に報告者を決めた上で、報告・討論を行う演習の形式で授業を行います。担当が割り当てられた週については、それなりの時間が準備に必要となりますからご注意ください。可能であれば、新書の著者や新聞記者を招いてのセミナーを織り交ぜたいと考えています。

参考文献

- 御厨貴編. 2013. 『歴代首相物語』新書館.
待鳥聡史. 2012. 『首相政治の制度分析：現代日本政治の権力基盤形成』千倉書房.
高安健将. 2009. 『首相の権力：日英比較からみる政権党とのダイナミズム』創文社.

講義の構成とスケジュール

- 第1週 導入・説明
第2週 待鳥聡史. 2006. 「強い首相」は日常となる『中央公論』10月号、前田幸男・平野浩. 2015. 「有権者の心理過程における首相イメージ」『選挙研究』31巻2号、他。
第3週 早野透. 2012. 『田中角栄』中央公論新社（新書）
第4週 福永文夫. 2008. 『大平正芳』中央公論新社（新書）
第5週 セミナー（新書著者－交渉予定）
第6週 服部龍二. 2015. 『中曽根康弘』中央公論新社（新書）
第7週 テキストデータの分析実習・実演
第8週 所信表明演説／施政方針演説と新聞社説を読む（1）
第9週 所信表明演説／施政方針演説と新聞社説を読む（2）
第10週 セミナー（新聞記者－交渉予定）
第11週 井上寿一. 2009. 『吉田茂と昭和史』講談社（現代新書）
第12週 岩見隆夫. 2012（1979）. 『昭和の妖怪 岸信介』中央公論新社（文庫）
第13週 柿崎明二. 2015. 『検証安倍イズム』岩波書店（新書）

上記は書籍の選定を含めてあくまで素案であるので変更がありうる。

メディア・ジャーナリズム論文献講読Ⅳ (メディア文化を／で作る・学ぶ・教える)

北田 暁大 教授

A1A2ターム 水曜日 5時限 (2単位)

講義概要

本講義は、メディア文化(サブカルチャー、アート、情報発信など)を作り出していくこと、伝えていくこと、教えていくこと、学ぶことに関する基本文献の購読を通して、メディア文化とジャーナリズム、情報媒体の関係を、社会的、芸術学的、文化研究的に考察していくことを目的とする。

情報学環ではここ三年ほど「角川寄付講座」において、サブカルチャー、コンテンツ文化の学際的交流を図るとともに、「社会の芸術フォーラム」においてアート、コンテンツ文化と社会の関係性を問題化してきた。サブカルチャー、アートは、たんに「消費」するだけの対象ではなく、それ自体「作られる」ものであり、「作る」過程をトレースすることで、その文化的・社会的意義が明瞭化するものである。本講義は、そこで得られた知見を、文献購読・議論の形式で深化させていくこととしたい。

本講義では、社会学、社会心理学、文化研究、アートの各領域においてゲスト講師を招き、計6冊を12回に分けて精読する。参加学生による購読レポート発表、講師の概説・講義、ディスカッションの三つの要素をもった講義を、6種類用意する、ということである。受講生は班に分かれて、最低一冊の報告と規定回数以上のディスカッションへの参加を求められる。

参考文献

■クレア・ビショップ『人工地獄』は初回講義までに必ず読んでおくこと。

■伊藤剛『テズカ・イズ・デッド』

その他の文献については、研究生 ML、初回講義などで指示する。

講義の構成とスケジュール

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 『人工地獄』購読
- 第3週 『人工地獄』購読
- 第4週 『テズカ・イズ・デッド』購読
- 第5週 『テズカ・イズ・デッド』購読
- 第6週 購読③
- 第7週 購読③
- 第8週 購読④
- 第9週 購読④
- 第10週 購読⑤
- 第11週 購読⑤
- 第12週 購読⑥
- 第13週 購読⑥

情報産業論実験実習Ⅱ

(言葉で「伝える」仕事、その原理と応用。「出版」を事例にして。)

石島 裕之 講師

(筑摩書房)

A1A2ターム 水曜日 6時限 (4単位)

講義概要

ここでの目標は、「魅力的で実現可能な本」の企画を、みなさんが立案できるようになること。それは、「伝える」技術が身につくということでもあります。そのために必要なポイントを、編集者としての観点から示していきます。実際に手と頭を使ってもらいつつ、ときにはデザイナーやプロの書き手をゲストに招き、「出版」への理解が深められるよう、そして「伝える」技術が身につけられるよう、講義を進めていきます。

参考文献

『絵と言葉の一研究：「わかりやすい」デザインを考える』(寄藤文平、美術出版社、2012年)

『情報の歴史：象形文字から人工知能まで』(編集工学研究所著、松岡正剛監修、NTT出版、1996年)

『大学とは何か』(吉見俊哉、岩波新書、2011年)

講義の構成とスケジュール

- 第1週 「売れる本」とは？——自己紹介+講義の概説+みなさんへのアンケート
- 第2週 「本」の主成分を考える+「企画」とは何か？
- 第3週 習うより慣れよ——「企画」を実際に考えてみる！
- 第4週 書き手にとって編集者とは？ 【ゲスト予定】
- 第5週 「伝える」技術の基本は「編集」にあり(その1)——情報「濃度」と「配列」
- 第6週 「伝える」技術の基本は「編集」にあり(その2)——よい文章とは？
- 第7週 「伝える」技術の基本は「編集」にあり(その3)——「正しい」タイトル・コピーとは？
- 第8週 「伝える」技術の基本は「編集」にある(その4)——パッケージ力とは？
- 第9週 本にとってデザインとは？ 【ゲスト予定】
- 第10週 情報を媒介する編集者？ 【ゲスト予定】
- 第11週 商品としての本、コモンズとしての本 【ゲスト予定】
- 第12週 成立可能な「企画」を目指して(その1)
- 第13週 成立可能な「企画」を目指して(その2)

情報社会論文献講読Ⅰ（マス・コミュニケーションの社会学）

河 兪珍（ハ キョンジン） 助 教

A1A2ターム 木曜日 4時限（2単位）

講義概要

本講義では、ブーアスティンの『幻影（イメージ）の時代——マスコミが製造する事実』の精読を通してマス・コミュニケーションと社会のかかわりを理解することを目的とする。ブーアスティンは「擬似イベント」(pseudo-event)という概念を中心に、ニュースの製造、有名人の誕生、観光産業の発達などの事例を通して現代社会における「イメージ」の製造と流通のプロセスを鋭く描いている。マス・コミュニケーションがつくりあげる「イメージ」とはいかなるもので、それは社会と人々に対してどのような働きをしてきたかを、本書の精読しつつ、受講生と議論しながら考察していくことにしたい。

参考文献

- Boorstin, D., 1961, *The Image: or, what happened to the American Dream*, New York: Atheneum. (=1964、後藤和彦ほか訳『幻影（イメージ）の時代——マスコミが製造する事実』東京創元社。)
- Lippmann, W., 1922, *Public Opinion*, Harcourt, Brace and Company. (=1987、掛川トミ子訳『世論（上・下）』岩波書店。)
- Riesman, D., 1950, *The Lonely Crowd: A Study of a Changing American Character*, Yale University Press. (=1964、加藤秀俊訳『孤独な群衆（上・下）』みすず書房。)

講義の構成とスケジュール

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 第1章 ニュースの取材からニュースの製造へ（1）
- 第3週 第1章 ニュースの取材からニュースの製造へ（2）
- 第4週 第2章 英雄から有名人へ（1）
- 第5週 第2章 英雄から有名人へ（2）
- 第6週 第3章 旅行者から観光客へ（1）
- 第7週 第3章 旅行者から観光客へ（2）
- 第8週 第4章 形から影へ（1）
- 第9週 第4章 形から影へ（2）
- 第10週 第5章 理想からイメージへ（1）
- 第11週 第5章 理想からイメージへ（2）
- 第12週 第6章 アメリカの夢からアメリカの幻想へ？
- 第13週 まとめと討論

メディア・ジャーナリズム論講義Ⅰ (体験的メディア・ジャーナリズム論)

水谷 典雄 講 師

(新聞研究所・社会情報研究所・情報学環同窓会副会長) 他

A1ターム 木曜日 5・6時限 (2単位)

講義概要

東大新聞研・社会情報研・情報学環教育部のOB/OGによる講義を、本年度も企画・実施する。

ここ数年、さまざまな形で企業としてのメディアの姿、職業としてのジャーナリストのあり方がさらに強く問われていることを実感する。この講義では、放送局・新聞社・出版社・デジタルメディアを仕事の場とするOB/OGが、日々の想いをからめつつ、業務の実像をリアリティ豊かに紹介する。

それは現実に即した「メディア人」論となるはずで、将来その世界に進もうとしている人にもそうでない人にも有益な体験になると考える。

参考文献

講義の構成とスケジュール

(各回の内容・講師陣は8月をメドに発表します)

※講義時間は17:00～20:00とします。

※各回リアクションペーパーを配布、原則として中間の休憩時間に質問・意見を記入してもらった上で回収し、後半の講義ではそれを踏まえて意見交換を行います。

※これまでの履修者も再度履修可とします。

※評価は出席点と期末に課すレポートで行います。

情報社会論講義 I (デジタルメディアと教育の未来像)

箕輪 貴 講師

(NHK出版)

A1A2ターム 金曜日 6時限 (2単位)

講義概要

急速に進化する社会の中で、いま児童、生徒、学生にどんな技能、どんな知識を身につけることが求められているのでしょうか。

近年、デジタルネットワークが情報基盤となりつつある社会において、教育のあらゆる局面(学校、家庭、社会)で同時多発的に新しい学びのメディアが登場しています。この講座では、NHKの学校放送番組をはじめ教育メディアが果たしてきた役割と現状、さらに今後現場に導入されるデジタルメディアの可能性について考えていきます。

まず近未来の社会を生きるために必要な「技能」と「知識」を考察します。そしてメディアごとにコンテンツ、サービス、システム等の特性を確認し、学習者にもたらす成果を見通します。

必要に応じてメディア企業のプロデューサー、ディレクター、エディター、デザイナーをゲストに招き、最新の情報を共有しながら授業を進めます。

参考文献

1. 「10年後の教室 (Kindle版)」 山内祐平 著 日経パソコン
2. 「テレビ的教養」 佐藤卓巳 著 NTT出版
3. 「教育メディアの開発と活用」 教育工学選書7
近藤勲・黒上晴夫・堀田龍也・野中陽一 著 ミネルヴァ書房
4. 「教育×破壊イノベーション 教育現場を抜本的に変革する」
クレイトン・クリステンセン他 著 翔泳社
5. 「ポスト・ヒューマン誕生」 レイ・カーツワイル 著 NHK出版

講義の構成とスケジュール

- 第1週 KEYNOTE ～教育の未来像を探る～
- 第2週 近未来のプロフェッショナル ～新しい肩書・新しい職業～
- 第3週 学校放送 ～教室とメディアとの遭遇～
- 第4週 Eテレ ～教育番組を企画・編成する～
- 第5週 NHK for School ～教室の情報化を支援する～
- 第6週 放送大学 ～日本型オープン・ユニバーシティの現状と課題～
- 第7週 MOOCs ～教育プラットフォームの最先端～
- 第8週 電子書籍 ～新しい教養体系を構築する～
- 第9週 デジタル教科書 ～教育コンテンツの未来形～
- 第10週 モバイル学習 ～スマフォアプリと学びのスタイル～
- 第11週 UI&UX ～新しい学習体験をデザインする～
- 第12週 AR&VR ～拡張現実と教育コンテンツ開発～
- 第13週 NEXT WORLD ～Singularityと教育の未来像～

※ゲストスピーカーの都合によりスケジュール・内容を変更する可能性があります。